

## 「あいさつ」のチカラ

今回は、耕人塾の重点事項である“あいさつ”について考えてみましょう。

相手から気持ちがよい“あいさつ”が返ってきたときは、嬉しい気分になります。しかし、“あいさつ”をしても返事が返ってこないこともあります。その時は、ちょっと寂しい思いがします。また、「おはようございます」と伝えると、「おはようございます」のオウム返しのような返事が返ってくることもよくあります。

では、「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」をテーマに掲げている耕人塾では、どんな“あいさつ”を求めるとよいでしょうか。

仏教には『愛語』という言葉があります。これは「人に対して、親しみのある心のこもった言葉をかけなさい」という教えです。“あいさつ”こそ身近に実践できる『愛語』です。道元禅師は、『愛語』について「愛語よく廻天のちからあることを学すべきなり」と言われています。「心から愛情に満ちた言葉は、天をも引き回す程の力があるのだから、聞く人の一生を左右するということを深く考えなさい」ということです。このように愛情に満ちた心のこもった言葉を使うことは、いつの時代でも大切な教えの実践であり、それによって自分も相手も正しい道へ進ませるほどの大きな力があるのです。

“あいさつ”はコミュニケーションの基本、入り口です。私たちは、家族や友人、同じ目的を共有する仲間や、また初対面の方とも、相手を尊重しながら、お互いの考えや思いを伝え、理解し合おうとします。それがコミュニケーションです。家庭においても、社会においてもコミュニケーションは必須のもの、なくてはならないものですが、それぞれの場面に合わせて適切な“あいさつ”が出来れば、速やかに、そして、滑らかにコミュニケーションに入っていくのです。

では、滑らかなコミュニケーションはどうやって行えるのか。そこで大切なのが、穏やかな表情です。仏教では「和顔」と呼んでいます。更に、親愛の気持ちがこもった「愛語」で“あいさつ”を交わしたならば、人を元気にさせるパワーが生まれ、あいさつの輪が広がります。

これからの時代は、海外の人々とも交流し、多様な文化と価値観の中で、折り合いを付けながら合意形成を図らなければならない場面がたくさんあります。その時は、「和顔」と「愛語」をパワーにした「和顔愛語」の“あいさつ”こそ、世界に誇れる石巻の「あいさつ力」になると確信しています。

## クリティカル・ポイント

クリティカル・ポイント【critical point】とは、臨界温度で気体が液化する瞬間の圧力と体積を示す点です。水を温めていき、99度まで行きます。99.99999・・・と続きます。そして、あとちょっとの刺激（熱）が入ると突然沸騰して、底面から大きな泡がポコポコと出てきます。要は、水蒸気に変化するわけです。この99℃～100℃が臨界点なんです。

それと同様に、あるとき突然、『同じ問題のレベルなのに、解法ポイントが分かった！』とか、『ああ、なんかコツが掴めた！』となる 때가来ます。それはいつのタイミングなのか？スポーツでも言えます。記録を超えられた瞬間に、クリティカル・ポイントがあります。

塾生の皆さんにとっても、ある時突然、分からなかったことが分かるようになった！という状態がやってきます。そのタイミングを逃さず、焦らずにこつこつと努力することがクリティカル・ポイントを見つける近道かもしれません。むしろ、せつかくの機会だから塾生同士で楽しみながら、磨き合う。仲間のよさに出会いながら、それぞれが課題を追究することを大切にしたいと願っています。